

16:1 イエスは、弟子たちにも次のように言われた。「ある金持ちに一人の管理人がいた。この男が主人の財産を無駄遣いしていると、告げ口をする者があった。

16:2 そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『お前について聞いていることがあるが、どうなのか。会計の報告を出しなさい。もう管理を任せておくわけにはいかない。』

16:3 管理人は考えた。『どうしようか。主人はわたしから管理の仕事を取り上げようとしている。土を掘る力もないし、物乞いをするのも恥ずかしい。

16:4 そうだ。こうしよう。管理の仕事をやめさせられても、自分を家に迎えてくれるような者たちを作ればいいのだ。』

16:5 そこで、管理人は主人に借りのある者を一人一人呼んで、まず最初の人に、『わたしの主人にいくら借りがあるのか』と言った。

16:6 『油百バトス』と言うと、管理人は言った。『これがあなたの証文だ。急いで、腰を掛けて、五十バトスと書き直しなさい。』

16:7 また別の人には、『あなたは、いくら借りがあるのか』と言った。

『小麦百コロス』と言うと、管理人は言った。『これがあなたの証文だ。八十コロスと書き直しなさい。』

16:8 主人は、この不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた。この世の子らは、自分の仲間に対して、光の子らよりも賢くふるまっている。

16:9 そこで、わたしは言うておくが、不正にまみれた富で友達を作りなさい。そうしておけば、金がなくなったとき、あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる。

16:10 ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。

16:11 だから、不正にまみれた富について忠実でなければ、だれがあなたが

たに本当に価値あるものを任せるだろうか。

16:12 また、他人のものについて忠実でなければ、だれがあなたがたのものを与えてくれるだろうか。

16:13 どんな召し使いも二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」

年間第 25 主日 9 月第 5 週説教 2013.9.22

不正な管理人

ルカ 16 章 1-13 節

〈所変われば品変わる〉

同じ事柄、出来事でも見方、立場が違ってくると意味が変わってきます。

九回裏 2 アウト満塁一打逆転サヨナラの場面、攻める側からすればチャンス、守る側にしてみれば大ピンチです。あなたがどっちのチームを鼻負しているか、応援しているかでピンチ・チャンスは入れ替わります。

難解で知られるきょうのテキスト、1-8 節前半のイエスのたとえも見方を変えてみると少しはわかりやすくなります。登場人物は金持ち（主人）、管理人、借りのある A さんと B さんの四人です。

この男が主人の財産を無駄遣いしていると、告げ口をする者があった。 16:1 節後半

告げ口が原因で管理人はクビにされるのですが、そのことで主人を恨んでいる様子はありません。管理人は主人が人に貸したものを勝手に減額します。債務者 A さんからすると借りを少なくしてくれた管理人はいい人です。同じく B さんにしても管理人はいい人です。A さんと B さんを比べてみれば 100 を 50 にしてもらった A さんのほうが B さん（100 を 80 に減額）よりも管理人に感謝しているでしょう。（*1）

主人は、この不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた。 16:8 節前半

管理人は下心からやった借金の減額が思いがけず主人に褒められる。クビにはなりますが、こういう話は世間はほっときません、痛快な話なので管理人の評判は上がったたり下がったり、彼の再就職にも希望がもてます。いっぽう金持ちの主人はどうかというと世間の評判は上々のはず。悪いことは悪い、だからクビはクビ、しかし管理人の不正減額は褒める、主人の太っ腹、粋なはからいに世間はやんやの喝采をするはずです。

イエスのたとはこういう話なのですが、ルカ福音書はこの管理人の不正の説明を始めます。8節後半から13節までお金に関するイエス語録をてんこ盛りにしているけれど辻褄がどうにもあわない。管理人は悔い改めた罪びとの像にどうにも結びつかない、後世の解釈を困らせるテキストができあがってしまったというわけです。

<義人を招く教会>

このような批判があります。

現代のキリスト教会は果たして「罪びと」を招いているだろうか。いつの間にか「義人」を招くようになっていっているのではなかろうか。まず人を自分たちの規準にあった「義人」に変えて、それから「義人」になった者にだけ神の救いとか祝福を約束しているのではなかろうか。その「規準」には、酒や煙草をのまないことから、特定の進歩的な社会思想をもって社会改革を実践することや、特定の教義を信奉することまでさまざまな形があるが、その規準にあわない者を退けているならば、それは「義人」を招く教会である。（市川喜一著 マルコ福音書講解第一部 12章から）

わたしたちはけっして金持ちでもないのに、だいたい金持ちの側に立った見方をします。金持ちの主人側から見れば管理人は主人の財産を散在し、あげくの果てに自分の利益のために借金の減額までするので文句なく悪党です。でもさっき見たようにこっち側、貧乏がわ、債務者からすれば感謝感激の話になるんです。

<善悪を先立てて考えない>

利口そうに振る舞うこと、物知りぶることを「さかしら」といいます。古い日本語ですが、さかしら口をたたく、というような使い方をします。この管理人はあまり利口に立ち回っていません。主人が褒めたのは管理人の「さかしら」でないところともいえます。

基準をつくる、その基準をベースに検討する、計算する、考える。善悪、よしあしを基準にする、間違っただけではありません。しかし、間違いでないだけで正解ではありません。

わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり／わたしの道はあなたたちの道と異なると／主は言われる。天が地を高く超えているように／わたしの道は、あなたたちの道を／わたしの思いは／あなたたちの思いを、高く超えている。

(イザヤ 55:8-9)

自分の、自分たちの基準でよし悪しを判断する、考える、いっばしの大人はみんなしていることです。しかし主イエスはそれに待ったをかけます。それは時折見せるイエスのギラリとしたみ言葉です。

主人は、この不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた。 16:8 節前半

(短い祈り) 自由に用いる

全能の神よ、きょう聞いたみことばを心に深く植え込み、み恵みによってよい行いの実を結び、み名の栄光をあらわすことができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン

* 1

「ある金貸しから、二人の人が金を借りていた。一人は五百デナリオン、もう一人は五十デナリオンである。二人には返す金がなかったので、金貸しは両方の借金を帳消しにしてやった。二人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか。」シモンは、「帳消しにしてもらった額の多い方だと思います」と答えた。イエスは、「そのとおりだ」と言われた。ルカ 7:41-43